

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101319		
法人名	社会福祉法人 創世福祉事業団		
事業所名	社会福祉法人 創世福祉事業団 グループホーム「輝きの郷」		
所在地	福島県福島市山口字七口13-1 (電話) 024-525-5077		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(2007年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算7.625人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,700 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.2 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かんの消化器科外科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年2月の開設以来満7年を経過し、運営理念に則った「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」の共同生活介護の理念が着実に定着している様子が強く感じられた。隣接の大規模介護施設はすべて母体企業(創世福祉事業団)の関連施設であり、緊急事態発生時(夜間の看護体制など)においても万全の連携がとれることになっており、利用者や家族にとって大きな安心感が保たれている。立地条件も豊かな自然環境に恵まれており、ホーム内の共用空間や居室も広々として明るく、利用者はゆっくりとした時間の流れの中で穏やかに過ごされていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では日曜日の入浴不可が要改善となっていたが、現在の利用者は週4回~6回の入浴を行っており、特に日曜日入浴不可についての不満は感じられない。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者以下全職員が評価の意義を理解し、項目ごとに真剣に取り組み、ケアの向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地元町会長や地域包括支援センターを交えて、地域との交流を密に行っている。利用者家族の出席も多く見られ、活発な意見の交換も行われており、毎月の行事や地域交流に活かした取組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者ごとに写真入りの近況報告を毎月家族宛に送り、家族との意見の交換を行っている。また、利用者個人毎のオリジナルアルバムを作成し、今までの生活の様子が楽しく綴られており、家族訪問時の話題づくりに役に立っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体企業と地域との交流は密接な関係が出来上がっており、夏祭りをはじめとして、地域住民とのイベント交流も毎年行われており、地域ぐるみ、施設ぐるみでの連携が図られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」という事業所独自の理念を作り、玄関入口に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食事は個々人の時間に合わせてゆっくりと、食後の団樂は和気藹々と、浴槽は常に満タンの湯船に、など「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」の理念を掲げて、職員全員がその実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアとの交流や地域のお祭りの実施など、母体企業が常に関連施設全体の地域交流をすすめている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	園長、管理者、職員は、自己評価と外部評価の意義を理解し、今までの外部評価等で要改善となった項目を中心に職員全体で改善し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地元町会長や地域包括支援センターを交えて、地域との交流を密に行なっている。利用者家族の出席も多く見られ、活発な意見の交換も行われており、毎月の行事や地域交流に活かした取り組みがなされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りの裏面に、個人別の写真入り近況報告を行い家族に送付している。職員の異動等については報告がなされていない。	○	ホーム便りに職員の異動や離職のお知らせも記載するよう検討してほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関わきに家族や職員と自由に面談できる「応接間」があり、家族と利用者、または職員と家族がゆっくりと面談できる体制になっており、個々人のアルバムを利用しながら意見等を引き出し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営母体施設の職員の異動等が多いが、グループホーム職員の異動は別扱いとし最小限にしている。異動があった場合には、引継ぎの期間を十分にとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員には資格の取得を推進し、その他の職員にも研修会等の機会を設けているが、出席の機会が少ない。	○	管理者以下全職員の研修機会を多く作っていくと同時に内部研修にも力を入れていただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会には積極的に参加しているが、現在他グループホームとの相互交流を図るべく、実現に向けて計画中である。	○	今後はネットワークづくりや相互訪問などの活動を積極的に実践して行っていただきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者個々人の尊厳を重んじ、会話する時間を共に過ごす他、一緒に買い物をするなどして信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などから本人の意向や生活への思いの把握に努めているが、援助活動に必要な利用者個人の状態把握が少なく感じられる。	○	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するために、個々人の生活史情報を毎日のふれあいの中から把握し、全員で記録していくなどしてほしい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の介護日誌や、個人記録簿をもとに定例(月1回)のケア会議を行っており、介護計画作成時には本人と家族の同意を得て作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の健康状態のチェックや本人又は家族からの情報などで利用者の状態に変化が生じた場合、3ヶ月ごとの見直しなどを含めて常にケアマネジャーを中心に現状に即した見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医の受診は家族同行で行なっているが、家族の都合が悪い場合職員が受診に付き添う場合もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では看取りは行っていない。個々人の家族と話し合い、万一の場合は即医療(入院)で対応し、介護のみでは対応しないと言うことで家族とも方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは、優しくゆっくり行われている。記録等の保管や取扱は厳しく行なっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の好む調度品や趣味のものを用いるなど、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から配膳までそれぞれの役割分担があり、利用者と職員が楽しみながら食事をしている。利用者が後片付けを手伝っているほか、厨房内が清潔であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は2～3人が楽に入れる大型であり、日曜日を除いてほとんどの利用者が毎日入浴を楽しんでいる。夜間入浴希望者の入浴支援も行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	共用空間の飾りつけ、生花の創作、園庭の草むしり、など個々人の趣味や役割によって、気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	施設周辺の散策や食材の買出しなど、天候の具合を見ながら外出の支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行なっていない。グループホーム入り口の門にセンサーを設置するなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>隣接する施設と合同で定期的な防災訓練を行っており、グループホーム単独でも毎月避難訓練を行なっている。また運営推進会議を通じて地域との協力が行われるようになっている。</p>		<p>今後、夜間を想定した避難訓練(夜勤職員一人と想定して)などを行なうよう検討してほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立表には毎食のカロリーが明記されている。また、個々人の食事等の摂取量等も記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は広々として快適に出来ている。また、要所要所に一服休みの長椅子があり、窓辺には季節の生花が飾られるなど、居心地のよい空間が提供されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者個々人に合わせた、馴染みの居室になっている。仏壇や古いタンスなど本人が好むもの等を持ち込めるよう支援して、利用者本人が納得できる環境づくりが行われている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム「輝きの郷」
記入担当者名 山我 トモ子

評価結果に対する事業所の意見
特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。